

第95回メーデー

中央大会が開催される



4月27日、小雨の降る中、東京都渋谷区代々木公園で開かれ、主催者発表でおよそ2万8800人の加盟産別組合員が参集し、JR貨物連合から、貨物鉄産労関東地区本部・南関東ロジスティクス労組組合員が参加しました。

主催者を代表し挨拶に立った連合芳野会長は「働く人の7割がいる中小企業の給料が上がらなければ、本当の賃上げとは言えない。大手企業から圧力をかけられることなく、取引価格の適正化を進めるべきだ」と強調しました。来賓挨拶では、岸田総理大臣より「長年に渡ってしみついたデフレ心理を払拭し、賃上げという意識を社会全体で一気呵成に変えなければならない。今年、物価上昇を上回る所得を必ず実現し、来年以降に物価上昇を上回る賃上げを必ず定着させる。この2点を果たすため全力で取り組み、今後も連合の意見に耳を傾け、より連携し、政策を1つ1つ果断に丁寧に進めていく」と述べられました。その後、小池東京都知事、立憲民主党泉代表、国民民主党玉木代表が挨拶され、「賃上げの流れを社会全体に広げていくことが重要だ」と訴えました。

最後に、「2024春闘は多くの組合で去年を上回る賃上げを獲得し、デフレマインドを払拭して新たな経済社会のステージへ転換する大きな一歩を踏み出した」として、この勢いを中小企業に波及させすべての働く人の生活向上につなげていく」とするメーデー宣言を採択され、メーデー実行委員長による、「団結頑張ろう」を三唱し終了しました。

宣言には、能登半島地震の被災地や被災者に寄り添った支援活動に取り組むとする内容も盛り込まれました。